

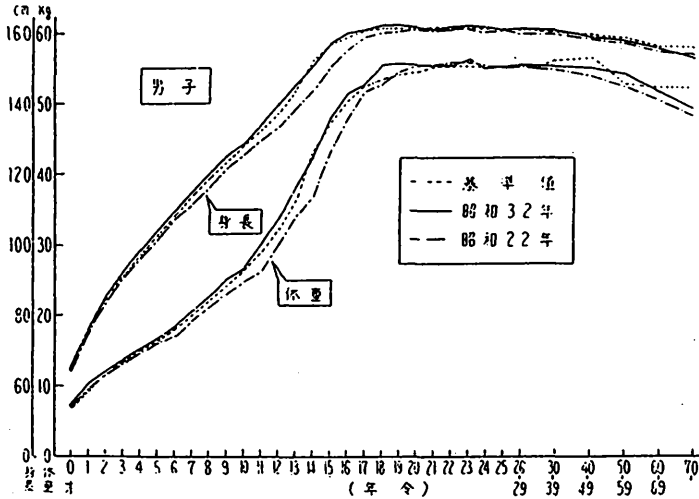
では 0.4~0.9kg の範囲で消費者世帯が優位にある。

16才以後では生産者世帯がすぐれ、その差は年令によつて異なるが、平均 1kg 以上の相違である。

胸囲、上腕囲では、身長の場合と異なり、乳幼児を除く他の年令層では全般に生産者世帯が優位を示している。

要するに消費者世帯の乳幼児の發育は、すべてにおいて生産者世帯よりまさっているが、青少年層では身長、体重、座高はすぐれているが胸囲と上腕囲はやや下位にある。

第 23 図 全国身長・体重表
(基準値との比較)



生産者世帯では乳幼児、青少年の發育は劣つているが、成人になると広胸型のずんぐりした消費者世帯よりも体重の多い者が多いことを示している。

年次推移

わが国青少年の体位の変遷の概要を既存の統計資料からみると、身長は明治以後除々に上昇し、大正の末期頃から上昇の傾向は著しくなり、昭和12~14年頃が最高に達した。

しかるに昭和16年頃から急速に低

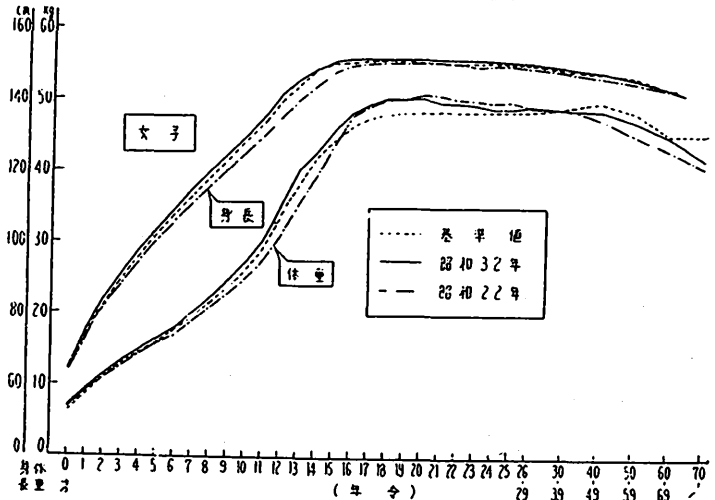
下しはじめ、昭和21~23年頃には最低に達し、その後再び急速に上昇し、今日にいたつている。

次に身長を座高と下肢長に分けて考えると、戦時においても座高は僅かしか低下しなかつたが、下肢長が著しく低下し、また、戦後においては下肢長が著しく増加している。

なお、戦後の回復状態は年令により著しく相違し、一般に幼児期に食糧難を経験した者ほど、その被害は激しく、回復も遅れていることが判

明したが、おおむね30年から戦前の最高記録を上回るまでに回復した。しかし、例外として男子の14才の身長、体重がいまだこれをしのげずにいる。

第 24 図 全国身長・体重表
(基準値との比較)



6. 食 材 料 費

ここでいう食材料費とは、摂取した全食品量について購入、自家生産、糞物等の別を問わず、すべて市

場価格に換算して1人1日当りの平均を示したものである。

1) 全国1人1日当り食材料費

全国平均1人1日当りの食費は96.86円(うち動物性食品入手に要した費用23.74円)で前年の96.08円を0.8%上回っている。なお、これを食品群別にみると、総額中に占める米類の比率は30.7%、小麦4.3%、大麦2.8%穀類全体では37.9%となっており、米の占める割合が極めて高いことを示している。

副食費では魚介類の占める割合が13.6%、豆類5.8%、獣鳥肉類5.6%などが主だったもので、次いで果実4.9%、その他の野菜4.2%となっている。

調味嗜好品の占める割合も9.9%とかなり高い率を示し、食生活内容に多分にしや侈的性格が盛り込まれてきたことを示している。

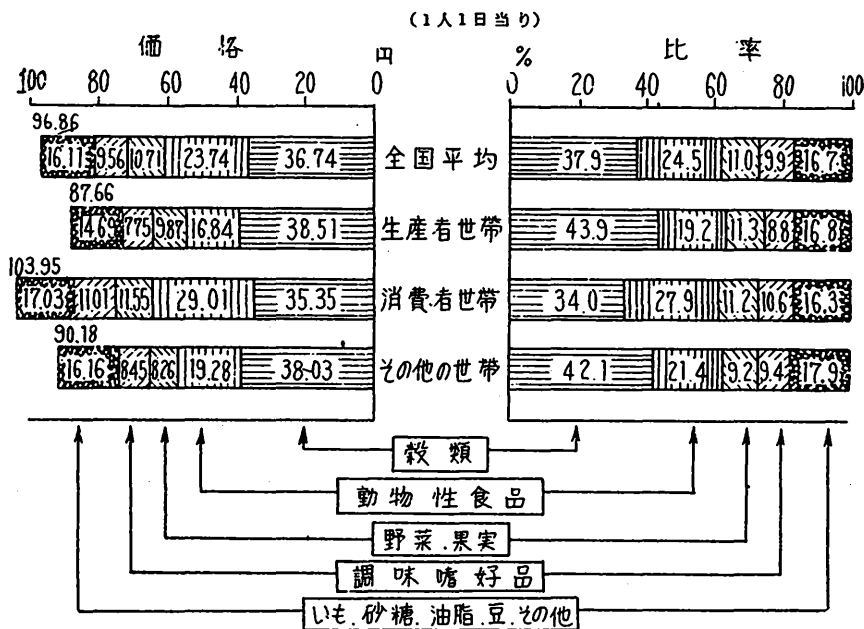
季節別にみると8月が最も高く99.15円、5月が最も低く94.60円で、およそ5.00円の差が認められる。なお摂取栄養量では既述の如く11月の摂取量が多く、8月に少かつたが食材料費では逆の関係がみられる。

2) 業態別1人1日当り食材料費

業態別にみると第25図にみられるように消費者世帯の食材料費が最も高く103.95円、その他の世帯で90.18円、生産者世帯は最も少く87.66円である。

そのうち動物性食品入手に要した費用は、消費者世帯29.01円、その他の世帯19.28円、生産者世帯16.84円である。すなわち、消費者世帯は、生産者世帯に比べて総額において18.6%、動物性食品については72.2%多く要している。

第25図 食品群別、食材料費及び比率



(1) 生産者世帯

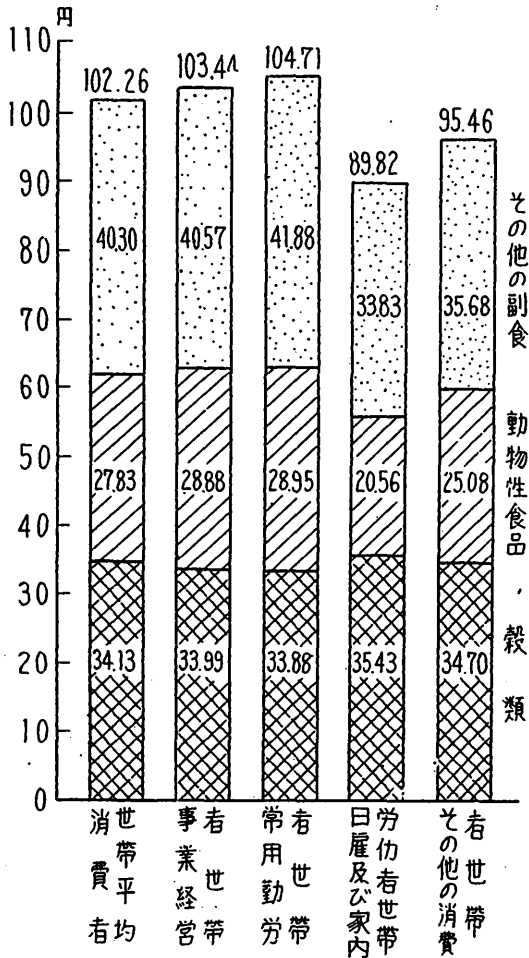
生産者世帯の食材料費は87.66円で業態中最も低く、全国平均からみて9.5%下回っている。これを食品群別にみると、穀類の占める割合が極めて大きく43.9%(38.51円)をしめ、消費者世帯の35.35円と比較して3.16円多く要している。

しかし、動物性食品の占める割合は19.2%、油脂0.9%、調味嗜好品8.8%など、いずれも消費者世帯からみると著しく少い。このように生産者世帯では自家生産物に強く依存している関係から、現金購入を必要とする品目や比較的嗜好性の強い品目の占める割合が極めて低くなっている。

(ロ) 消費者世帯

消費者世帯では 103.95 円 (うち動物性食品入手に要した費用は 29.01 円) で業態中最も高く、生産者世帯と比べると総額において18.6%，動物性食品については72.2% 多く要している。次に総額中に占め

第 26 図 1人1日当り食材料費
(5月調査、消費者世帯の細分)



る穀類の割合は 35.35 円で他業態より低い、他の副食物にあつてはいずれも多くなつている。特に肉卵、乳類及び嗜好品の占める費用が他業態に比べてかなり多くなつている。次に5月調査における消費者世帯を細分した結果について述べる。(第26図)

事業経営者世帯の食費は 103.44 円で消費者世帯平均よりやや多く、そのうち穀類の占める割合は平均以下の32.9%であるが、動物性食品、果実、調味嗜好品に要した費用はやや多くなつている。

常用勤労者世帯の食費は104.71円で事業経営者世帯を僅か上回り、業態中最も高くなつている。事業経営者世帯と比べると穀類がやや少く、豆類と油脂の費用が多くなつている。

日雇及び家内労働者世帯の食費は 89.82 円で消費者世帯中最も少く、最高の常用勤労者世帯からみると14.2%低い。そのうち穀類の占める割合は39.4%で全業態中最も多い。

しかし、動物性食品、油脂、野菜、果実、調味嗜好品等の占める割合は極めて少く、食生活水準の低いことを示している。

その他の消費者世帯の食費は 95.46 円で消費者世

帯の平均より 6.6% 低く、また穀類の占める割合は多いが、副食費は日雇及び家内労働者世帯に次いで低くなつている。

い) その他の世帯

その他の世帯の食費は第 25 図にみられるように 90.18 円で全国平均からみると 6.9% 低い。その内容についてみると、生産者世帯と比較的類似した形をしているが、穀類と野菜、果実の占める割合がやや少く、他の副食費は生産者世帯よりも多く要している。